

第3回「日中未来創発ワークショップin北京～未来の都市生活を考える」 企画運営スタッフレポート

東京大学法学部3年
梅河智博

1. 概要

令和5年11月23日から27日までの5日間、私は学生運営委員として公益財団法人笹川平和財団の主催する『日中未来創発ワークショップ』に参加させていただきました。主な活動内容は、中国外文局アジア太平洋広報センター、中華人民共和国駐日本国大使館並びに公益財団法人日本科学協会の主催する「Panda杯全日本青年作文コンクール2023」で優秀賞を授与された方々並びに入選された方々が参加される中国研修の一環として、北京で行われるフィールドワークとワークショップの準備・運営に係わる業務でした。なお、本報告書には一部私個人の主観的な感想や考えが含まれていることを予めご了承ください。

2. Panda杯受賞者の中国研修における『日中未来創発ワークショップ』

11月24日から25日までの間、我々は学生運営委員として、Panda杯中国研修のうちの初めての2日間をお借りして、『日中未来創発ワークショップ』とそれに伴うフィールドワーク並びに企業見学を開催いたしました。同ワークショップのテーマは「X年後の若者の未来の生活シーンを描いてみる」であり、その目標は、企業見学やフィールドワークを通じて都市の中に存在する「気になるところ」を見つけるとともに、それらを近年急成長を遂げているAIなどのイノベーション「技術」と掛け合わせて、未来の人々の生活がどのように発展しているかを想像することでした。

初日にまず、Panda杯受賞者の皆様とともに、世界最先端の人工知能技術の開発に注力しているテクノロジーカンパニーである商湯科技（センスタイム）を訪問いたしました。企業見学をしていく中で様々な最新のAI技術を目の当たりにすると同時に、それらの最先端技術がどのように人々の生活の中に応用されているのかについて詳しく学ぶことができました。特に、ディープラーニングを活用して画像を認識し分析する技術や、自動運転や医療の領域におけるAIの活用法がとても印象的でした。また、同企業が地方政府に協力し、交通に関するビッグデータをAIに処理させて交通量や交通事故の傾向を明確にすることで地方政府の政策立案に貢献するといった話もあり、人工知能技術がどれほど我々の生活の改善・向上に貢献しているのかについて深く理解することができました。

その後夕食会を終え、学生運営委員とPanda杯受賞者の皆様がそれぞれ各班に分かれて、翌日のフィールドワークのコースを各チームで相談して決め、1日目の全日程を終えました。

2日目に入り、まずは10時～16時20分まで各チームに分かれて北京市内でフィールドワー

クを行いました。私の所属したチーム4は、まず什刹海の周りを散策してから天安門広場に向かい、その後王府井の百貨店内で遅めの昼食をとるとともに、同百貨店の地下2階にある「和平菓局」と呼ばれる1980年代の北京の胡同を再現した小規模のテーマパークを見学し、最後に前門大街で中国の歴史的街並みを楽しみながら散策するという行程に沿って北京市内を回りました。街を散策しながら、私もその他の班のメンバーも皆さんも、日本の都市とは違う部分や便利そうに見えるものを数多く発見し、その気づきをその都度他の班員と共有することができました。例えば、自転車専用レーンや監視カメラの台数は日本の都市と比べると相当多く設置されていたので、私はその気づき他のメンバーにつたえるとともに、そのメリットやデメリットについて歩きながら一緒に考えていました。また、天安門広場の近くにある地下鉄駅を出た途端、二・三重の厳格な安全検査が我々を待っていました。とてもしっかりした厳戒態勢に我々一同は衝撃を受けるとともに、どうにか最新技術を用いてこの時間のかかる安全検査の手続きをより簡略化できないものかという雑談をしていました。

フィールドワークを終え合流した各チームは、夕食を済ませた後に国観智库という中国のシンクタンクのオフィスに移動し、そこで約3時間にわたるワークショップを各チームに分かれて行いました。班員一人一人がフィールドワークを通じて発見した都市の「気になるところ」と企業見学で学んだ「技術」をそれぞれ付箋に書き出し、それらをホワイトボードの両極端に張り付けながら他のメンバーに共有したうえで、X年後（Xについては各班が自由に設定できる）にはそれらの「気になるところ」が「技術」を通じてどのように改善されているのかを自由に討論しました。我々4班は、都市の交通渋滞の緩和を自動運転技術により実現できるかどうかや、最新技術を駆使して地下鉄や観光地における煩雑な安全検査の簡略化できないかなどについて話し合いました。ディスカッションの後、最後に全体で集まり討論した成果をチームごとに発表し、他の班の気づきや考えも共有することができました。

3. 終わりに

ワークショップ本番の数か月前から着々と準備や計画をすすめてきた我々学生運営委員にとって、『日中未来創発ワークショップ』を滞りなく遂行し成功に導けたことが何よりも嬉しく光栄に存じます。今回のワークショップはPanda杯受賞者の皆様のみならず、我々学生運営委員にとっても、未来の課題やその改善について真剣に考えることのできる貴重な機会であったと感じております。他の委員よりも運営に加わった時期が遅いにもかかわらず私を暖かく迎え入れてくださった学生運営委員の皆様並びに公益財団法人笹川平和財団の皆様、そして『日中未来創発ワークショップ』でお世話になりました人民中国の皆様、公益財団法人日本科学協会の皆様並びにPanda杯受賞者の皆様に心から御礼申し上げます。